

令和5年度第2回富山県がん診療連携協議会 議事次第

日時 令和6年3月7日(木)
16時から

場所 県立中央病院 5階ホール

1 開 会

2 議 題

- (1) 令和5年度作業部会の活動実績報告について
- (2) 富山県がん対策推進計画の概要について
- (3) 富山県がん診療連携協議会のHPの活動報告について
- (4) 令和6年度の部会長病院について
- (5) その他

3 閉 会

<配布資料>

説明資料1「令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(研修部会)」

説明資料2「令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(がん登録部会)」

説明資料3「令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

(小児・AYA世代妊孕性温存部会)

説明資料4「令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(相談支援部会)」

説明資料5「令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(緩和ケア部会)」

説明資料6「令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

(地域連携クリティカルパス部会)」

説明資料7「富山県がん対策推進計画【令和6年度～令和11年度】(案)の概要」

説明資料8「富山県がん診療連携協議会HPの活動報告書」

参考資料1「富山県がん診療連携協議会設置要綱」

参考資料2「富山県がん診療連携協議会作業部会の設置」

令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	研修部会	2. 部会長病院(部会長)	富山大学附属病院(林龍二総合がんセンター長、臨床腫瘍部 部長)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	河岸 由紀男(呼吸器内科部長)、藤田 由紀江(副看護部長)、本田 拓巳(総務課主任)		
富山労災病院	庄司 泰弘(第二外科部長)、本間 啓子(看護副部長)、山本 尚弘(医事課長)		
富山市民病院	名倉 慎人(外科医長)、田中 理津子(統括副看護部長)、村中 なつみ(経営管理課主任)		
富山大学附属病院	林 龍二(総合がんセンター長、臨床腫瘍部 部長)、若林 世恵(副看護部長)、小野 敦央(副薬剤部長)、黒田 景一(病院総務課主事)		
厚生連高岡病院	柴田 和彦(がん相談支援センター長、腫瘍内科診療部長)、吉田 志布(総合的がん診療センター看護師長)、大江 淳一(総務課主任)		
高岡市民病院	大澤 幸治(消化器内科主任部長)、豊本 香里(主任看護師(がん看護専門看護師))、志村 昌子(総務課主任)		
市立砺波総合病院	西嶋 博司(がん診療部長)、今井 真由美(看護部科長)、中本 達也(医事課 事務)		
富山県立中央病院	小川 浩平(腫瘍内科部長)、五本 友子(看護部看護研修科長)、長田 翔(経営管理課管理係主事)		
済生会高岡病院	吉田 徹(診療部長・外科部長)、山田 真由美(看護副師長(乳がん認定看護師))、奥田 美紀(総務課課主事)		
富山赤十字病院	岡田 和彦(消化器内科部長)、原 浩美(看護部副部長兼研修センター長補佐)、奥村 紗季(研修センター 事務主任)		
オブザーバー	森本 佳彦(県健康課がん対策推進班班長)、川原 英里奈(県健康課がん対策推進班主事)、垣地 彩(富山大学附属病院)		
4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和5年7月21日(オンライン会議)	28名	1. がん医療従事者研修実績について 2. 研修部会主催による研修・講演会について 3. 希少がん研修について
第二回	令和6年2月19日(オンライン会議)	25名	1. 本年度の活動成果と今後の課題について 2. 令和5年度研修実績について
5. 活動成果			
<p>1) コロナ禍の4年目となり、対面研修を徐々に取り入れ、WEB とのハイブリッドで開催される研修会も行われた。</p> <p>2) 今年度の研修テーマとして①希少がん、②高齢者がん対策、③妊孕性温存、④がんゲノム医療の4項目があった。①においては1回の研修会と4回の症例検討会(予定含む)が開催された。②については前年度に3回の研修会が開催されたものの、その後の進展があまりなく課題とされた。③妊孕性温存については富山県がん資料連携協議会の中に昨年度より妊孕性温存に関する部会が新たに立ち上げられ、研修会や妊孕性温存における県の補助金事業が実行される成果がみられた。④のがんゲノム医療に関しては拠点、連携病院の富山大学附属病院、富山県立中央病院では着実に検査は行われた。2病院が連携してがんゲノム医療に関する市民公開講座を開催し、市民啓発に寄与した。</p>			
6. 今後の課題			

今年度から第4期がん対策推進基本計画にのっとり、研修事業を各拠点病院が一体となって進めることに取り組んだが、参加者は必ずしも全拠点病院には至らず課題が残る。より拠点病院のニーズに見合った研修事業を行うために、各病院のヒアリングを行うなどして研修計画を立てる必要がある。

7. PDCAの取組み

- | | |
|---|-----------------------------|
| P | 稀少がん症例検討会の立ち上げ。 |
| D | 研修会1回、症例検討会4回(予定含む)を開催した。 |
| C | 研修会開催は実現したが、参加者は少数にとどまった。 |
| A | 各拠点病院のニーズを具体的に把握することが必要である。 |

8. 来年度の部会長病院(案)	富山大学附属病院
-----------------	----------

※「7. PDCAの取組み」については、「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	がん登録	2. 部会長病院(部会長)	富山大学附属病院 (第一内科診療准教授 猪又 峰彦)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	寺田 逸郎 (副院長(外科部長)) 木島 道明 (情報管理課 主幹) 南保 寛子 (情報管理課 診療情報管理士) 中島 香 (情報管理課)		
富山労災病院	石浦 嘉之 (泌尿器科部長) 八木 満 (消化器内科部長) 谷 昌子 (医事課 診療情報管理士)		
富山市民病院	長谷川 徹 (健康診断部主任部長) 山崎 亜希子 (医事課 副主幹) 中川 理恵 (医事課 診療情報管理士) 長瀬 玲 (医事課 診療情報管理士)		
富山大学附属病院	猪又 峰彦 (第一内科診療准教授) 神田 寛之 (医事課長) 古邸 良枝 (医事課 診療情報管理士) 梁沢 智美 (医事課)		
厚生連高岡病院	柴田 和彦 (副院長(腫瘍内科診療部長)) 老月 昌美 (医療情報部 課長) 高橋 章乃 (医療情報部 係長) 山田 麻未 (医療情報部 診療情報管理士)		
高岡市民病院	中谷 敦子 (消化器内科主任部長) 島田 輝 (医事課長) 関澤 佳奈 (医事課 診療情報管理士)		
市立砺波総合病院	西嶋 博司 (がん診療部長 兼 放射線治療科部長) 田中 有佳 (医療情報部 診療情報管理士)		
富山県立中央病院	石澤 伸 (病理診断科部長) 砂原 恭子 (病歴管理科 副課長) 山田 美菜 (病歴管理科 診療情報管理士) 澤武 ちさと (病歴管理科 診療情報管理士)		
済生会高岡病院	吉田 徹 (診療部長(外来・地域連携) 兼 外科部長 兼 総合地域連携部長) 中瀬 剛司 (経営戦略室主幹 兼 総務課主幹) 品川 恵理子 (医事課 診療情報管理士) 川田 沙織 (医事課 診療情報管理士)		
富山赤十字病院	佐々木 正寿 (副院長) 高坂 利幸 (医療情報管理課長) 田島 稔子 (医療情報管理課) 葛島 美穂 (医療情報管理課)		
富山県 厚生部 健康対策室	森本 佳彦 (健康課 がん対策推進班長) 川原 英里奈 (健康課 がん対策推進班)		
オブザーバー	林 龍二 (富山大学附属病院 臨床腫瘍部教授 兼 総合がんセンター長)		

4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和5年6月29日(木)	29名	1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の情報共有 2. 2014-2015年5年生存率集計報告 3. 富山県がん診療連携拠点病院 2021年診断分比較報告、各病院の経年比較報告
5. 活動成果			
1) 国立がん研究センターでWeb開催された「令和5年度都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」の資料をもとに、現状、今後の予定など情報共有を行った。 2) 院内がん登録2014-2015年5年生存率集計の情報共有を行った。 3) 富山県がん診療連携拠点病院2021年診断分比較報告、及び各病院の経年比較を行い、各病院の特性などについて情報共有・分析を行った。			
6. 今後の課題			
1) 2022年・2023年院内がん登録・全国がん登録、及び院内がん登録5年生存率集計の情報共有・分析を図る。 2) 日々のがん登録業務における疑問点及び問題点について協議する。			
7. PDCAの取組み			
P	がん登録について都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会資料等により情報共有を行う。		
D	がん登録作業部会を開催した。		
C	事業報告、今後の予定、院内がん登録生存率集計・経年比較について情報共有を行った。		
A	・各施設でのがん医療の質の向上に対し、情報の還元・活用に向けての課題を明らかにする。 ・がん登録業務における疑問点及び問題点について協議する。		
8. 来年度の部会長病院(案)		富山赤十字病院	

令和5年度富山県がん診療連携協議会小児・AYA 世代妊孕性温存部会活動実績報告書

1. 部会名	小児・AY 世代妊孕性温存部会	2. 部会長病院(部会長)	富山大学附属病院(林龍二総合がんセンター長、臨床腫瘍部 部長)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	結城 浩良(産婦人科部長), 西川 祐美子(精神科医長), 石川 憲一(総務課主任)		
富山労災病院	庄司 泰弘(第二外科部長), 宮島 玲子(がん化学療法認定看護師)		
富山市民病院	長谷川 徹(産婦人科部長), 中井 尚美(看護師)		
富山大学附属病院	林 龍二(総合がんセンター長, 臨床腫瘍部部長), 中島 彰俊(産科婦人科教授), 伊東 雅美(産科婦人科助教), 市川 美幸(総合がんセンター看護師長), 倉田 典子(外来看護師長), 垣地 彩(病院企画課係長)		
厚生連高岡病院	福田 香織(産婦人科診療部長待遇), 茶谷 香織(乳がん看護認定看護師)		
高岡市民病院	山崎 悠紀(産婦人科部長), 蔭浦 瑞希(副看護師長), 志村 昌子(総務課主任)		
市立砺波総合病院	佐々木 泰(産婦人科部長), 平 優子(がん相談支援センター相談員), 中本 達也(医事課 事務)		
富山県立中央病院	南 里恵(産婦人科部長), 高田 智美(主任)		
済生会高岡病院	吉田 徹(診療部長, 外科部長), 吉本 英生(産婦人科部長), 山田 真由美(看護副師長(乳がん認定看護師))		
富山赤十字病院	黒川 敏郎(院長補佐兼血液内科部長), 高橋 裕(第2産婦人科部長), 高橋 斉子(助産師兼母性看護専門看護師)		
あい ART クリニック	副田 善勝(理事長)		
富山県厚生部健康対策室健康課	森本 佳彦(がん対策推進班長), 吉田 祥吾(がん対策推進班 主任)		
4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和5年7月28日(金)	23名	1. 富山県における妊孕性温存療法の助成事業について 2. 令和5年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動 3. アンケートの実施について
第二回	令和6年3月1日(金)	22名	1. 令和5年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動報告 2. 令和6年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動予定
5. 活動成果			
【富山県がん・生殖医療ネットワーク推進研修会について】			
2024年1月12日に令和5年度富山県がん生殖医療ネットワーク推進研修会/富山県がん診療連携協議会小児AYA 世代妊孕性温存部会検討会を行った。参加者は64人で昨年度(第1回33人、第2回33人)よりも多くの医療関係者が参加した。			
【小児・AYA 世代がん患者等妊孕性温存療法研究事業について】			
① 妊孕性温存療法の助成実績 令和5年度は延12件(実人数8人)であった(令和3年度:10件(実7人), 令和4年度:15件(実9人)。			
② 温存後補助医療の助成実績 令和5年度の実績は0件であった(令和4年度:延2件)。			
6. 今後の課題			
【富山県がん・生殖医療ネットワーク推進研修会について】			

医師・看護師以外の参加者は、研修医(3人)、栄養士、放射線技師、学生、行政・病院のがん相談センター相談員、県健康課職員と幅広い職種の参加があった。今回も大学病院所属以外で産婦人科以外の診療科医師の参加は2人(血液内科1人、腫瘍内科1人。前は0)と依然少なかった。医師以外の職種に本事業を広めていくことが有用であるため、引き続きがん診療拠点病院内での全職種に対して普及に努めていく必要がある。

【小児・AYA 世代がん患者等妊孕性温存療法研究事業について】

妊孕性温存療法については、一定数の申請があるが、温存後補助医療については、申請が少ない。申請要件の該当者が多くはないのかもしれないが、もっと広く事業について知っていただく機会を作っていく必要がある。

【がん・生殖医療ネットワークについて】

- ① 令和4年度富山県がん診療連携協議会小児 AYA 部会活動実績報告書に引き続き、厚労科研研究班としての考え方(添付資料1)に準じて未達成項目をクリアしていく必要がある(添付資料2参照)。
- ② 温存後生殖補助医療施設には、本部会に参加いただいているが、妊孕性温存療法実施施設や卵巣組織・Onco-TESE 実施施設にも本部会に参加いただく体制を作る必要がある。

7. PDCAの取組み

P	<ul style="list-style-type: none"> ・症例検討会を企画する。 ・相談支援担当者の代表について討議する。 ・患者(ないし患者家族)の代表の参画について討議する。 ・各がん診療連携拠点病院における相談件数の把握(症例数の共有)、研修会・検討会の企画・運営・成果の管理(参加者数の把握)までを行う事務局の役割をどこが担うのかについて検討する。
D	<ul style="list-style-type: none"> ① 症例検討会を実施する ② 部会で上記討議項目について議論し、具体的時間軸を決定する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・部会でDo①②について半年ごとに振り返る。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・Check 時に、“進行が遅い”あるいは“進行ができない”案件の理由を共有し、次年度に改善するための取り組み方を盛り込んだうえで、次年度のPlanに継続審議する。

8. 来年度の部会長病院(案) 富山大学附属病院

※「7. PDCAの取組み」については、「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

厚生労働科学研究（19EA1015）がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して 研究① 本邦における小児・AYA 世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究：古井辰郎、鈴木直

ネットワーク要件に関する研究班としての考え方

地域がん・生殖医療ネットワークの構成と機能に関する研究班の基本的考え

I. 地域がん・生殖医療ネットワーク設置の目的

各都道府県において、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業を実施するにあたり、行政やがん等診療施設と妊孕性温存療法実施医療施設等における、医療連携や情報連携の推進および、患者に対する情報提供並びに意思決定支援体制の整備と質の向上を図るとともに、妊孕性温存を希望する患者が円滑に治療を受けられる体制を構築する。

II. 地域がん・生殖医療ネットワークの設置概要（構成と運営）

- ① 各都道府県において、がん等診療施設、妊孕性温存療法実施医療施設（注1）、関連する行政機関等が参加し、がん等診療医、生殖医療医、相談支援担当者（治療に関すること、生殖医療に関すること、精神・心理支援に関すること、その他社会的支援等を含む様々な相談に関すること）、行政の担当者等により構成されている。患者本位の体制を構築するにあたって、患者または患者家族の代表の参画が望ましい。
- ② 地域がん・生殖医療ネットワークには代表者をおき、全体の仕組みが円滑に進んでいるかを総括する。代表者は、ネットワークの構成員の互選で決定する。
- ③ 地域がん・生殖医療ネットワークには、事業の庶務等を担う事務局を置く。（注2）
- ④ ネットワークに参画している者の役割分担を明確にした上で、名簿を作成・共有し、患者がネットワーク内のどの医療機関を受診しても迅速に必要な紹介等ができる体制を整備する。

（注1）妊孕性温存療法実施医療施設は、上記研究促進事業に即して日本産科婦人科学会または日本泌尿器科学会の認定を受けていることを条件とするが、本ネットワークの目的達成に必要と認められる場合には、妊孕性温存療法実施医療施設以外の生殖医療専門医の参画も求めることができる。また、患者の受療行動を勘案し、当該自治体の外にある医療施設であっても参加を求めることができる

（注2）研究班で調査した結果、神奈川県では神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課、島根県では県がん診療ネットワーク協議会（島根大学病院内）が事務局機能を担っていた。研究班では、各都道府県の実態を踏まえつつ、先行する地域がん・生殖医療ネットワークの活動を参考に、関係医療施設と地方自治体の協力の下、各地域のがん・生殖医療ネットワークに事務局を設置していくことが望ましいとの総意に至った。事務局の具体的な機能としては、普及啓発、医療施設や実施状況の情報把握や公表、運営検討会や人材育成のための研修等の開催等の業務等が想定される。

厚生労働科学研究（19EA1015）がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して 研究① 本邦における小児・AYA 世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究：古井辰郎、鈴木直

ネットワーク要件に関する研究班としての考え方

III. 地域がん・生殖医療ネットワークの事業

各地域のがん・生殖医療ネットワークは、がん等診療施設と妊孕性温存療法実施医療施設のがん・生殖医療の連携推進に資する事業を担う。研究班の検討において、以下の事業が挙げられた。

① OCjpn（注3）との連携による地域間の相互支援体制への参加

具体的には以下のとおり。

- ・地域がん・生殖医療ネットワークの事務局は構成施設やその他の情報に変更があった場合に OCjpn に情報提供する。
- ・がん・生殖医療に係る独自資料や資材などの提供等を通じて、OCjpn の支援に努める。
- ・OCjpn web サイト（JSPF 地域連携のページ）を自地域の web サイトとして利用できる。

（注3）OCjpn=Oncofertility Consortium Japan は厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して」で提唱・構築された、各都道府県のネットワーク間の相互支援活動である（事務局：日本がん・生殖医療学会）。OCjpn は、web サイト(<http://j-sfp.org/cooperation/>)において各都道府県のネットワークおよび構成施設等に関する情報提供、補助説明資料や啓発資材の提供等を行うとともに、シンポジウムの開催等を行っている。なお、OCjpn への参加にあたり、日本がん・生殖医療学会への入会は条件としていない。

② 関連学会等と連携して、がん・生殖医療に携わる医療従事者に対して研修の機会を提供することによる、認定がん・生殖医療ナビゲーター、がん・生殖医療専門心理士、OFNN（オンコファティリティー・ナビゲーター・ナース）等の人材育成支援及びがん・生殖医療に関する医療者、患者・国民への啓発活動

③ がん・生殖医療の連携状況における課題の把握と解決に向けた検討会の開催

優先して検討されるべき課題として、以下に例を挙げる。

・連携体制に関する検討：

- 1) がん等診療施設における妊孕性温存療法実施医療施設に対する妊孕性温存に関する相談件数並びに実態を把握し、患者に対する情報提供や、意思決定支援を受けた患者の妊孕性温存療法実施又は非実施の適正化を図る。（注4）
- 2) 施設間連携及び-1)に関する問題点の把握と解決策を検討

（注4）実態把握の方法として地域内での情報共有および JOFR*の登録データの活用などが挙げられる。JOFR*=2021年4月から開始された、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業における、エビデンス創出のための登録事業

・がん等治療開始前から治療開始後、妊娠・分娩後に至るまでの長期にわたるがん・生殖医療に関する支援のあり方及び情報提供や支援に携わる人材育成に関する検討

以上

がん・生殖医療ネットワークの要件

	要件項目	富山県の 現状	備考
1	地域がん・生殖医療ネットワークの設置がされている	○	
2	ネットワークには、「がん診療医の代表」が参加している	○	
3	ネットワークには、「生殖医療医の代表」が参加している	○	
4	ネットワークには、「行政担当者の代表」が参加している	○	
5	ネットワークには、「相談支援担当者の代表」が参加している	○	
6	ネットワークには、「患者（ないし患者家族）の代表」が参加している	×	
7	「ネットワークの代表者」が定められている	○	
8	「事業の庶務等を担う事務局」が設置されている	○	
9	ネットワークの運営に参画している者の名簿が作成されている	○	
10	ネットワークの運営に参画している者の役割分担がなされている	×	
11	OCJpn (Oncofertility Consortium Japan) への情報提供体制が整えられている	3	5段階評価 (5:できている)
12	医療従事者に対する研修の提供体制が整えられている	4	5段階評価 (5:できている)
13	医療従事者に対する啓発活動を実施している	4	5段階評価 (5:できている)
14	患者・住民への啓発活動を行っている	4	5段階評価 (5:できている)
15	地域がん・生殖医療連携における問題点の把握と解決策に関する検討会を実施している	4	5段階評価 (5:できている)
16	ネットワーク事務局が、ネットワーク参画施設における相談件数を把握することが可能である	3	5段階評価 (5:できている)
17	地域での妊孕性温存実施件数（概数）の把握が可能である	3	5段階評価 (5:できている)
18	都道府県がん対策推進計画の中に本件に関する計画を有する	○	
19	今後都道府県がん対策推進計画の中に本件に関する計画を取り入れる予定である	○	

令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名		相談支援部会	2. 部会長病院(部会長)		富山県済生会高岡病院
3. 部会メンバー					
黒部市民病院	高松 秀行(血液内科部長)、土屋 他恵子(公認心理師)、谷口 航洋(総務課主事)				
富山労災病院	庄司 泰弘(第二外科部長)、山本 尚宏(医事課長)、原 直子(相談員(看護師))				
富山市民病院	名倉 慎人(外科医長 緩和ケア内科医長)、中井 尚美(看護師(がん看護専門看護師))、八木 智矢(医療ソーシャルワーカー)				
富山大学附属病院	松井 恒志(がん相談支援センター長)、市川 美幸(看護師長)、中本 敬子(相談員(看護師))、伊井 瑞穂(相談員(医療ソーシャルワーカー))、古島 美差子(総合がんセンター(事務))				
厚生連高岡病院	柴田 和彦(腫瘍内科診療部長兼総合的がん診療センター長代理)、赤江 郁子(がん相談支援室 部長待遇相談員(看護師))、吉田 志布(相談員(看護師長))				
高岡市民病院	堀川 直樹(外科主任部長)、藤野 涼子(看護師長)、志村 昌子(総務課主任(事務))				
市立砺波総合病院	西嶋 博司(がん診療部長)、小竹 実穂(地域医療連携室主幹(社会福祉士))、平 優子(相談員(看護師長代理))、中本 達也(医事課)				
富山県立中央病院	丸山 美知郎(医療相談室長(内科部長))、船木 康二郎(緩和ケアセンター部長)、酒井 貴代美(看護部診療看護科長)、森川 朋子(地域連携室主幹)、中空 真由美(緩和ケアセンター部ジェネラルマネージャー)、長田 翔(経営管理課)				
済生会高岡病院	吉田 徹(外科部長)、藤川 泰永(経営戦略室課長(社会福祉士))、山田 真由美(看護師(乳がん認定看護師))、奥田 美紀(総務課主事)				
富山赤十字病院	竹原 朗(第2外科部長兼化学療法センター長)、寺井 由加里(外来師長)、麥 彩弥可(相談員(看護係長))、長江 香緒里(医療社会事業課医療社会事業係長)				
オブザーバー	三浦 紫乃(新川厚生センター)、白又 小晴(中部厚生センター)、山崎 嘉那(高岡厚生センター)、茂住 恵(砺波厚生センター)、山田 雅実(富山市保健所)、森本佳彦(富山県厚生部健康課)、小村 彩乃(富山県厚生部健康課)、尾川 洋子(富山県がん総合相談支援センター)				
4. 開催実績					
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要		
第一回	令和5年6月19日(月) 富山県教育文化会館 504号室	15名	1. ワーキンググループのあり方について 2. 「がん情報とやま」について		
第二回	令和5年10月3日(火) 富山県民会館 705号室	33名	1. 令和4年度相談実績報告及び令和5年度活動計画 2. 富山県がん総合支援センターからの報告 3. 富山県からの報告 『がん患者在宅療養支援体制整備事業について』 4. 令和5年度ワーキンググループについて 5. 地域相談支援フォーラムについて 6. 第20回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告		
第三回	令和6年1月22日(月) オンライン開催	16名	1. 令和6年度北陸相談支援フォーラムについて 2. 国立がん研究センターがん相談員研修について 3. ワーキンググループの活動について		
第四回	令和6年2月16日(金) 富山県民会館 704号室	32名	1. 令和5年度相談実績報告 2. ワーキンググループの活動について 3. 第21回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告		

5. 活動成果	
・12月2日(土)地域相談支援フォーラム(石川県主催)の開催 ZOOMによるオンライン開催	
6. 今後の課題	
1) がん相談支援の認知向上のために広報ワーキンググループをより機能させる	
2) 研修ワーキンググループを中心に地域相談支援フォーラム(主催)に向けて準備を進める	
3) 小児・AYA 世代への相談の知識・技術向上に努める(継続課題)	
7. PDCAの取組み	
P	1) がん相談支援の認知を向上させる 2) 地域相談支援フォーラム(共催)及び各種相談支援研修会を実施し相談員の質を向上させる
D	1) がん情報とやまの見直し及び図書館との連携を実施した 2) 地域相談支援フォーラム(共催)を実施した
C	1年間の相談件数の実績をとりまとめ、部会で意見交換・情報共有を行った
A	1) 広報ワーキンググループを中心にがん相談支援の認知向上に努める 2) 研修ワーキンググループを中心に研修会の企画・運営及び相談員への参加を呼びかけ相談員の質の向上に努める
8. 来年度の部会長病院(案)	黒部市民病院

※「7. PDCAの取組み」については、「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	緩和ケア部会	2. 部会長病院(部会長)	富山県立中央病院（船木康二郎緩和ケアセンター部長）
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	小林 孝一郎(緩和ケアセンター部長)、佐々木 良子(主任看護師)、谷口 航洋(総務課主事)		
富山労災病院	川崎 聡(副院長 内科・呼吸器科部長)、浜田 晶子(看護師長補佐)、白崎 祥(総務課長)		
富山市民病院	名倉 慎人(外科医長)、島 佳子(看護科副看護師長 緩和ケア認定看護師)、村中 なつみ(経営管理課主任)		
富山大学附属病院	林 龍二(総合がんセンター長、臨床腫瘍部 部長)、梶浦 新也(臨床腫瘍学講座 助教、臨床腫瘍部 副部長)、市川 美幸(緩和ケアセンターGM)、黒田 景一(病院総務課主事)		
厚生連高岡病院	村上 望(緩和ケアセンター センター長)、松長 成美(緩和ケア病棟 主任看護師)、平井 大裕(総務課)		
高岡市民病院	中山 啓(緩和ケア内科部長)、村田 裕子(主任看護師)、志村 昌子(総務課主任)		
市立砺波総合病院	加登 大介(緩和ケア科部長)、高島 留美(看護部 緩和ケア認定看護師)、中本 達也(がん診療部兼医事課・主任)		
富山県立中央病院	船木 康二郎(緩和ケアセンター部長)、中空 真由美(緩和ケアセンターGM)、長田 翔(経営管理課主事)		
済生会高岡病院	吉田 徹(外科部長)、高松 友季(看護部 緩和ケア認定看護師)、奥田 美紀(総務課主事)		
富山赤十字病院	長坂 康弘(泌尿器科部長)、村上 真由美(看護師長兼がん看護専門看護師)、木本 沙絵子(総務課主事)		
オブザーバー	森本 佳彦(県健康課がん対策推進班長)、川原 英里奈(県健康課がん対策推進班主事)		
4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和5年6月14日(オンライン) 会議	32	<ol style="list-style-type: none"> 本年度の活動と今後の課題について 緩和ケア部会としての PDCA サイクルについて
5. 活動成果			
<p>1) 今年度の緩和ケア研修会について報告・意見交換を行った。</p> <p>各病院で研修会未受講者の把握を行い他施設の開催時にも参加できるように調整を行うこととした。緩和ケア研修会の必要対象医師を県で統一すればよいのではないかと意見が出た。参加人数の少ない病院もあり、今後共同開催についても検討していくこととなった。</p> <p>2) 富山緩和医療研究会について</p> <p>今までは富山緩和医療研究会が緩和ケア部会と別に開催されていたが、企業の協力が困難となり、また世話人の負担が大きいことより今後富山緩和医療研究会を本部会の活動の一部として活動していくというが提案され本部会と県健康課として承認された。今後富山緩和医療研究会は本部会の分科会として活動していくこととなりそれに合わせた規約を作成していくこととなった。</p> <p>3) 緩和ケア合同検討会議について</p> <p>緩和ケア合同検討会議開催はがん診療連携拠点病院の要件ではなくなったが今後も富山大学が主体となり共同開催で開催することとなった。</p> <p>4) PDCAサイクルについて (ピアレビュー・在宅緩和ケア地域連携パス)</p> <p>・ピアレビューについては、現在は高岡医療圏で積極的に行われており、今後本部会としての活動として県全体での取組</p>			

を富山県立中央病院が中心となって実施していくこととした。
 ・在宅緩和ケア地域連携パスについては、ICT化が進み各医療圏・コミュニティによってそれぞれの取組があるが、今後は統一的な取組を視野に継続して行っていくことを確認した。

6. 今後の課題

- 1) 緩和ケア研修会については県全体で連携を取りながら受講対象者の把握、他施設での受講が可能となるような体制を整備していく。また共同開催について検討を行っていく。
- 2) 本部会の分科会として富山緩和医療研究会が開催、運営できるような規約、体制を構築する。
- 3) 緩和ケア合同検討会議の継続開催ができるように調整を行う。
- 4) ピアレビュー・在宅緩和ケア地域連携パスに関してPDCAの取り組みについて今後も部会員全体で取り組んでいく。

7. PDCAの取組み(ピアレビュー・在宅緩和ケア地域連携パス)

ピアレビュー

P	高岡医療圏で積極的に行われているピアレビューを県全体での活動に広げ取り組んでいく。
D	2023年12月23日に済生会高岡病院で高岡医療圏がん拠点病院ピアレビューが開催され本部会員も参加し今後の県全体での取り組みに向けて情報共有を行った。
C	高岡医療圏がん拠点病院ピアレビューは2018年から計3回にわたり継続開催され医療圏内の活動や課題について共有され地域の緩和ケアの質の向上に寄与していると考えられた。
A	2024年3月9日に高岡医療圏がん拠点病院ピアレビューの活動報告会が開催され本部会員も参加し情報共有を行いその内容も踏まえて次年度以降県全体での活動を行っていく。

在宅緩和ケア地域連携パス

P	富山県統一パス在宅緩和ケア地域連携パスのICT化を行い、その有用性を検討する。
D	高岡医療圏、富山市内で先行して帝人株式会社の「バイタルリンク R」を用いてパスのICT化を引き続き行っている。 2023年11月23日にオンラインで第8回北陸緩和医療研究会臨床研究懇話会において厚生連高岡病院 緩和ケアセンター 村上望先生から「在宅緩和ケアにおけるICT情報共有ツール利用症例の検討」という演題で今までの成果について発表があり参加者で現状の共有と今後の課題についてディスカッションを行った。
C	現在活動中の高岡医療圏、富山市内ではパスのICT化は進んでいる。県全体としてはまだ進んでいない地域や異なるシステムを使用しているところがある。 どのような情報を共有すれば良いか、また個人情報の管理やスタッフの負担軽減をどのようにすればできるかということが課題として上がった。
A	本部会として県全体で取り組みを引き続き行っていく。 医師会や各病院とも連携しながら富山県統一パス在宅緩和ケア地域連携パスのICT化を進めていく。

8. 来年度の部会長病院(案)

未定(年度内に開催される第2回の部会で決定の予定)

※「7. PDCAの取組み」については、「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

令和5年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	地域連携クリティカルパス部会	2. 部会長病院(部会長)	富山県立中央病院 (副院長 加治正英)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	河岸 由紀男 (呼吸器内科部長/肺) 矢野 正明 (消化器内科部長/肝) 桐 義輝 (医事課長)	寺田 逸郎 (副院長・外科部長/胃・大腸) 杉本 優弥 (外科医員/乳)	
富山労災病院	川崎 聡 (副院長・呼吸器内科部長/肺) 経田 淳 (消化器外科部長・乳腺外科部長/胃・大腸、乳)	八木 満 (消化器内科部長/胃・大腸・肝) 谷 昌子 (医事課)	
富山市民病院	土岐 善紀 (呼吸器外科部長・呼吸器・血管外科センター部長/肺) 宮下 知治 (外科部長/胃・大腸) 上山本 伸治 (外来診療部主任部長・消化器内科部長/肝) 長瀬 玲 (医事課主事)	野村 智 (呼吸器内科部長/肺) 名倉 慎人 (外科医長/胃・大腸) 竹下 雅樹 (乳腺外科部長/乳)	
富山大学附属病院	林 龍二 (臨床腫瘍部・部長・教授・総合がんセンター長・がんゲノム医療推進センター長/肺) 下山 耕一郎 (呼吸器外科・講師/肺) 梶浦 新也 (臨床腫瘍学助教・臨床腫瘍部副部長/胃・大腸) 田尻 和人 (第三内科・消化器内科・准教授・消化器内科・副科長/肝) 吉岡 伊作 (第二外科特命講師・小児外科診療科長/肝) 松井 恒志 (第二外科助教・乳腺科・内分泌外科診療科長/乳) 黒田 景一 (病院企画課主事)		
厚生連高岡病院	柴田 和彦 (副院長・腫瘍内科診療部長/肺) 原 拓央 (外科診療部長/胃・大腸) 澤田 幸一郎 (外科診療部長待遇/胃) 林 泰寛 (外科診療部長待遇/肝) 横田 和之 (医事課長代理)	谷内 毅 (呼吸器外科診療部長/肺) 小竹 優範 (消化器外科診療部長/大腸) 寺田 光宏 (院長・消化器内科診療部長/肝) 尾山 佳永子 (乳腺外科診療部長/乳)	
高岡市民病院	堀川 直樹 (外科主任部長/胃) 福島 亘 (副院長/乳)	伊藤 博行 (理事・副院長/肝) 島田 輝 (医事課長)	
市立砺波総合病院	清原 薫 (副院長・外科主任部長/肺) 家接 健一 (外科部長/大腸) 野崎 善成 (外科部長/乳)	浅海 吉傑 (外科部長/胃) 岡村 利之 (内科部長/肝) 中本 達也 (医事課・主任)	
富山県立中央病院	新納 英樹 (呼吸器外科部長/肺) 羽田 匡宏 (外科部長/胃・大腸) 吉川 朱実 (外科部長/乳)	加治 正英 (副院長・外科部長/胃・大腸) 酒井 明人 (医療局長・消化器内科部長/肝) 長田 翔 (経営管理課主事)	
済生会高岡病院	吉田 徹 (診療部長・外科部長/肺、胃、大腸、肝、乳) 寺崎 禎一 (副院長・リハビリテーション療法部長/肝) 奥田 美紀 (総務課主事)		
富山赤十字病院	宮津 克幸 (第2呼吸器外科部長/肺) 品川 和子 (第2消化器内科部長/胃) 竹原 朗 (第2外科部長/大腸) 渡邊 和英 (外科部医師/乳)	市川 智巳 (呼吸器・アレルギー内科部長/肺) 芝原 一繁 (第1外科部長/胃) 時光 善温 (肝臓内科部長/肝) 牛丸 和博 (医事サービス課長)	
オブザーバー	森本 佳彦 (がん対策推進班班長)	川原 英里奈 (がん対策推進班主事)	

4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和5年9月15日 オンライン	27名	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスの運用状況について ・診療手帳とやまスタッフ用ガイドの改訂について
第二回	令和6年2月15日 オンライン	28名	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスの運用状況について ・令和5年度の部会長病院の選出について
5. 活動成果 令和5年度のがんパス運用実績(胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝臓がん)は、以下の通りであった。 令和5年度 計185件 (令和4年度 計146件) 富山県立中央病院 110件 厚生連高岡病院 23件 富山大学附属病院 17件 高岡市民病院 16件 済生会高岡病院 10件 富山赤十字病院 6件 砺波総合病院 3件 ・各拠点病院の運用状況を報告し、パスの利用を増やすための方策について意見交換を行った。			
6. 今後の展望 ・パス適用数の増加及び今後の利用増を図るための取組みについて検討。 ①がん地域連携パスのメリットについて各病院で周知していただく。 ②ホルモン剤や抗がん剤使用している進行がん症例も対象に含める。 ③医師の負担軽減のため、パスの入力作業をクラークに業務分担お願いする。 ④最近症例数が増加している食道がん、前立腺がんについてもパス導入を検討していく。 ⑤他県の運用事例について講演していただく。 ⑥かかりつけ医への普及活動をすすめる。			
7. PDCAの取組み			
P	パスの利用実績を増やす		
D	各病院で使いやすいパスを作成して利用しやすくする		
C	1年間のパスの利用実績をとりまとめ、部会で意見交換・情報共有を行った		
A	さらなるパスの利用増をめざし、がん種に応じた工夫をする		
8. 来年度の部会長病院(案)		富山県立中央病院	

富山県がん対策推進計画【令和6年度～令和11年度】（案）の概要

計画策定の趣旨等

【計画策定の趣旨】

国の第4期がん対策推進基本計画に基づき、本県の実情に即した推進計画を策定し、総合的ながん対策を推進する。

【計画の性格】

がん対策基本法第12条に基づく都道府県がん対策推進計画

【計画期間】

令和6年度から令和11年度まで

基本目標：がんを知り、がんを克ち、がんとともに生きる

現状と重点課題

現 状

＜がんによる死亡者＞

本県では約3,700人ががんで亡くなり、死因の第1位

(全死亡者の約1/4、60歳代では4割以上)

- 75歳未満年齢調整死亡率では、ほとんどのがん種で減少傾向にあるが、**子宮がんは増加傾向にある。**

※子宮：県 3.9(H28)⇒5.9(R4)
全国 4.7(H28)⇒5.1(R4)

＜罹患状況＞

- 年齢調整罹患率(R1)では、特に**胃がんが全国値を大きく上回っている。**

※男性：県78.9、全国63.4
女性：県29.3、全国23.1

＜がん検診受診率＞

一部がん種で前回目標50%に達していない。

胃47.6%、肺58.1%、大腸52.1%、乳52.5%、子宮頸47.7% (R4)

＜精密検査受診率＞

一部がん種で目標90%に達していない。

胃95.2%、肺90.7%、大腸78.2%、乳93.0%、子宮頸83.8% (R2)

重点課題

1. がん検診受診率向上

2. 胃がん・子宮がんの予防対策の強化

3. たばこ対策の充実

4. がん患者が必要に応じた医療を受けられるがん医療提供体制

5. 小児・AYA世代のがんへの支援

施策の柱1. 予防の強化と早期発見の推進

予防の強化による罹患率の減少、がん検診による早期発見・早期治療の推進による死亡率の減少

★ 全がんの年齢調整罹患率

男性 474.3、女性 356.3(R1) ⇒ 目標：減少

★ 全がんの75歳未満年齢調整死亡率

男性 82.3、女性 53.0(R4) ⇒ 目標：減少

(1) がんにかからない生活習慣の確立

- ① 望ましい生活習慣の確立
- ② たばこ対策の充実、強化
- ③ ウイルスや細菌など感染の予防

主な個別目標

- ・食塩摂取量の減少 男性 12.1g、女性 10.3g ⇒ 【目標】男性 7.5g、女性 6.5g
- ・野菜摂取量の増加 256.5g ⇒ 【目標】350g
- ・20歳以上の喫煙率減少 男性 27.3%、女性 4.6% ⇒ 【目標】男性 21%、女性 2%

(2) がんの早期発見体制の強化

- ① 検診受診率の向上
- ② 効果的検診手法等の普及
- ③ 検診精度の向上

主な個別目標

- ・がん早期発見率 胃58.4%、肺37.6%、大腸47.8%、乳64.5%、子宮頸46.8% ⇒ 【目標】増加
- ・がん検診受診率(市町村・職域) 胃47.6%、肺58.1%、大腸52.1%、乳52.5%、子宮頸47.7% ⇒ 【目標】60%

施策の柱2. 質の高い医療の確保

県民が安心して質の高い医療が受けられるよう、診療体制の充実及びがん医療水準の向上

★ 全がんの5年生存率

65.5%(H26-H27) ⇒ 目標：増加

(1) 質の高い医療が受けられる体制の充実

- ① 富山県のがん診療体制の強化
- ② 手術療法、放射線療法、薬物療法、支持療法のさらなる充実とチーム医療の推進
- ③ がん医療を担う専門的な医療従事者の育成及び資質の向上
- ④ がんゲノム医療・免疫療法を含めた最新の医療技術への対応
- ⑤ がんと診断された時からの緩和ケアの推進
- ⑥ 妊孕性温存療法等提供体制の充実

主な個別目標

- ・がんの診断・治療全体の総合評価(評価が高い割合) 70.6% ⇒ 【目標】増加
- ・がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合 33.5% ⇒ 【目標】増加
- ・医療スタッフ間で情報が十分に共有されていると感じた患者の割合 67.0% ⇒ 【目標】増加
- ・がん遺伝子パネル検査数 175件 ⇒ 【目標】増加
- ・緩和ケア外来利用のべ患者数 4,520人 ⇒ 【目標】増加
- ・治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合 79.5% ⇒ 【目標】増加

施策の柱3. 患者支援体制の充実

相談支援体制等を充実させ、がんに悩む方やその家族等の療養生活の質の向上

★ 現在自分らしい日常生活を送れていると感じる

がん患者の割合 67.0%(H30) ⇒ 目標：増加

(1) がん患者の支援体制の充実

- ① 患者及びその家族の相談支援の充実
- ② 在宅療養支援体制・地域緩和ケアの充実
- ③ がん患者等の社会的な問題への対応
- ④ がん患者の活動支援

主な個別目標

- ・県がん総合相談支援センター等における相談件数 7,373件 ⇒ 【目標】増加
- ・訪問診療を実施している診療所・病院数 24.3施設 ⇒ 【目標】増加
- ・治療開始前に就労継続について説明を受けたがん患者の割合 30.9% ⇒ 【目標】増加
- ・外見の変化に関する悩みを相談できた患者の割合 29.2% ⇒ 【目標】増加
- ・ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合 32.6% ⇒ 【目標】増加

(2) ライフステージに応じたがん対策の充実

- ① 小児・AYA世代のがん対策
- ② 高齢者のがん対策

主な個別目標

- ・県がん総合相談支援センター等における小児・AYA世代からの相談件数の増加 244件 ⇒ 【目標】増加
- ・「高齢者がん診療に関するガイドライン」を活用している拠点病院数 - ⇒ 【目標】全拠点病院

基盤の整備

- (1) がんの教育・普及啓発 (2) がん登録の推進 (3) 臨床研究の推進 (4) 患者・市民参画の推進 (5) デジタル化の推進

計画の実効性の確保と推進

1. 計画の実効性の確保(PDCA)と推進体制

(1) マネジメントシステムの活用による実効性の確保 (2) 計画の推進体制と進行管理 (3) 感染症のまん延や災害等を見据えた対策

2. 計画の推進における役割分担

(県民、行政、医療機関等、職場・企業、学校、関係団体、患者会等)

富山県がん診療連携協議会HPの活動報告書

活動の目的

がん診療連携拠点病院間のがん医療等に関する情報を共有し、広く周知する。そして、富山県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできるようにする。

活動内容

市民公開講座の掲載

- ・富山県立中央病院 1件 ・市立砺波総合病院 1件
- ・富山市民病院 1件 ・富山赤十字病院 1件 ・厚労省 1件

計5件

活動成果

今後の予定

- ・掲載する情報を増やすため、項目名の変更【市民公開講座について】→【お知らせ】（実施済み）
- ・県内のがん診療状況の更新
- ・各拠点病院が自分で掲載できるように、アカウント登録及びマニュアルの配付

富山県がん診療連携協議会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 安心して質の高いがん医療が受けられるがん診療体制の構築をめざし、第3条に掲げる医療施設間の連携協力を図るため、富山県がん診療連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域におけるがん診療連携体制等がん医療に関する情報交換に関すること。
- (2) 富山県内の院内がん登録データの分析、評価等に関すること。
- (3) 富山県レベルの研修計画、診療支援医師の派遣調整に関すること。
- (4) 地域連携クリティカルパスの整備に関すること。
- (5) その他がん診療連携に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、次に掲げる医療施設、団体、行政機関等（以下「会員」という。）をもって構成する。

- (1) 国指定県がん診療連携拠点病院
- (2) 国指定地域がん診療連携拠点病院
- (3) 県指定がん診療地域連携拠点病院
- (4) 富山県医師会
- (5) 富山県厚生部健康課
- (6) とやま医療健康センター
- (7) 富山県厚生センター
- (8) その他協議会が必要と認める者

(会長)

第4条 協議会に会長を置き、国指定県がん診療連携拠点病院を代表する者をもって充てる。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する会員を代表する者がその職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、主宰する。

- 2 協議会は、関係者から意見を聴取することができる。

(作業部会)

第6条 協議事項について詳細な検討を行うため、協議会に作業部会を置くことができる。

- 2 作業部会は、第3条の第1号、第2号及び第3号に掲げる拠点病院（以下「がん拠点病院」という。）の職員のうち当該病院長が指名した者をもって構成する。
- 3 会長は、がん拠点病院の同意を得て、作業部会を代表するがん拠点病院（以下「部会長病院」という。）を指名するものとする。
- 4 作業部会に部会長を置き、部会長病院の院長が指名する職員をもって充てる。
- 5 作業部会の会議は、部会長が召集し、主宰する。
- 6 作業部会は、関係者から意見を聴取することができる。
- 7 部会長は、年1回、作業部会の活動の状況等を協議会に報告するものとする。

(事務局)

第7条 協議会の事務を処理するため、事務局を国指定県がん診療連携拠点病院に置く。

(細則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成19年2月9日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年5月21日から施行する。

富山県がん診療連携協議会作業部会の設置

参考資料2

【目的】

がん診療連携拠点病院機能強化事業を適正かつ円滑に実施するため、各病院の担当者が集まって事務の内容や方法など事業の具体的な進め方について、実務的な検討を行う。

【運営方法】

- ・ メンバーは、がん診療連携拠点病院（国指定県＋国指定地域＋県指定）10病院の関係職員とする。
- ・ 必要に応じて、関係者に出席を依頼し、意見を聴く。
- ・ 原則として、部会長病院が会議の日程調整や会場の提供を担当する。
- ・ 部会長は、会議において議事進行等を行う。
- ・ 部会長病院の選出は、原則として、1年ごとの持ち回りによるものとする。
- ・ 会議資料の作成等の事務作業については、がん拠点病院間で公平に分担し、部会長病院に負担が偏らないよう配慮する。

【構成等】

名称	検討事項	部会長病院 (R5年度)	メンバー(各部会共通)
研修部会	<input type="checkbox"/> 医師及びコメディカルスタッフの研修、派遣に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修計画の作成 ・ 派遣調整 	富山大学 附属病院	◇国指定県がん診療連携拠点病院 富山県立中央病院 ◇国指定地域がん診療連携 拠点病院 黒部市民病院 富山大学附属病院 厚生連高岡病院 市立砺波総合病院 ◇県指定がん診療地域連携 拠点病院 富山労災病院 富山赤十字病院 済生会高岡病院 富山市民病院 高岡市民病院 ◇関係者 必要に応じて出席を依頼し、意見を聴取。
がん登録部会	<input type="checkbox"/> 院内がん登録の実施に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内がん登録データの集計、分析、評価(精度管理) ・ 5年生存率の公表、データの検証 	富山大学 附属病院	
相談支援部会	<input type="checkbox"/> 相談支援センターの運営に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 病態、治療法等の一般的な医療情報、地域の医療機関、医療従事者に関する情報等の収集、提供・紹介 ・ がん患者会の強化 ・ がん診療に関する普及啓発 ・ 病病・病診連携の強化、在宅療養支援体制の確立（地域連携クリティカルパス整備と一体的に実施） 	済生会 高岡病院	
地域連携クリティカルパス部会	<input type="checkbox"/> 地域連携クリティカルパスの整備に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携クリティカルパスの作成 ・ 地域連携クリティカルパスの運用調整 ・ 進捗状況管理 	富山県立 中央病院	
緩和ケア部会	<input type="checkbox"/> 緩和ケアの充実に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅緩和ケア地域連携パスの作成 ・ 緩和ケア研修・フォローアップ研修に係る調整 	富山県立 中央病院	
小児・AYA世代妊孕性温存部会	<input type="checkbox"/> 小児・AYA世代の妊孕性温存療法に関すること <input type="checkbox"/> その他妊孕性温存療法の推進に必要と認めること	富山大学 附属病院	